



まちの達人

TATSUJIN

要約筆記サークル「すてっぷ蒲郡」

スタッフ 小田 淑子

聴覚障がい者のコミュニケーション手段としては「手話」が有名ですが、実際、「手話」でやり取りできる人は全体の2割以下です。私たち「要約筆記」の活動は、聴覚障がいの中でも、全国に800万人ほどいると言われている中途失聴者・難聴者の方が対象で、情報提供などを行っています。

普通に話す速さは、書く速さの5倍くらいです。その差をどうやって埋めるかが要約筆記の一番難しいところなんです。聞いたことをどのように書けば、話に遅れず、きちんと内容を伝えられるか。そのために、学習会はもとより研修会などに参加して要約筆記力を磨いています。

以前は、ボランティアで式典・講演会などの情報保障を行っていましたが、「障害者自立支援法」が施行されてからは、要約筆記者派遣制度と、福祉体験教室を始めとしたボランティアの部分との二本立てで活動を行っています。

また、難聴者の方の聴こえを補う機器として、「磁気誘導ループ」の設置を市に要望し、購入していただきました。今では、例会はもちろん、講演会や映画会などに設置し、多くの方に楽しんでいただいています。

「映画字幕」については、2年前、「いきいきビーンズ」さんから依頼があり、初めてサークル員で協力して字幕送りを行いました。今回はテープ起こしされたものを基に、専用のソフトを使って字幕を作成しました。当日は、「いきいきビーンズ」さんのメンバーの協力を得て上映することができました。

今後も要約筆記活動を通して、難聴者の方たちと一緒に「車の両輪」となって、聴覚障がい者の社会参加のため努力したいと思います。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

先日、三重県の大きな水族館へ生き物の交換に行ってきました。長年のお付き合いで、三重地方の魚をいただき、かわりに竹島水族館からはタカアシガニなどの深海の生き物を持って行き交換します。このような生き物の交換のときは、魚たちを専用のタンクに入れ、トラックの荷台に積んで運びます。熱帯魚などの暖かい地方の魚は主に夏の前後、逆に冷たいところに住んでいる魚たちは冬場に運びます。水族館で泳いでいる魚たちのほとんどは車に揺られてやってくるわけです。海外の魚は飛行機に乗って空を飛んできます。フィリピンやハワイ、紅海、海賊で有

魚がやってくる！

名なカリブ海などから続々とやってきます。驚くかもしれませんが、小さな魚たちは、いちいち飼育員がトラックで受け取りに行くのは手間なので、宅配便でやってきます。普通の荷物と一緒に、ダンボール箱に包まれた発泡スチロールに入ってやってきます。熱帯地方の魚の場合、冬場は配達中に水温が下がってしまうので、箱の中にホッカイ口を入れたりもします。そのほか、アシカなどは大型犬用のおりに入って車ですべて運ばれます。好奇心旺盛の子どものアシカなどは、目まぐるしくかわる車窓からの景色を興味津々で眺めているそうです。そして、極めつけはシャチなどの大型動物。これらは、まるごと一機チャーターした飛行機で、専属の獣医さんやスタッフと一緒にやってきます。ここまでくると大プロジェクトです。水族館に来たら、生息地が書かれた解説パネルにも注目してみてくださいね。